

シビアアクシデント severe accident

[簡単に]

設計で想定していた事象を超え、炉心の重大な損傷に至る事故

[詳しく]

あらかじめ想定していた「設計基準事象」を大きく超える事象であり、安全設計の評価上想定された手段では、適切に炉心を冷却または制御できない状態となって、炉心溶融または原子炉格納容器の破損に至る事象です。米国のスリーマイルアイランド事故、旧ソ連のチェルノブイリ事故、日本の福島第一原子力発電所事故が、シビアアクシデント（過酷事故）に相当します。

[角度を変えて]

1979年3月に米国スリーマイルアイランド2号機（TMI-2）で起きた事故では、原子炉炉心の約半分が溶融しました。この事故は設計基準事故を超えた事故であり、シビアアクシデントの典型例として位置づけられています。これを契機に、シビアアクシデントの諸現象の把握やシビアアクシデントへの防止対策のため、炉心の損傷、溶融過程に関する研究が、各国で精力的に実施されています。

(参考) シビアアクシデント時の炉心溶融進展に関する研究 (06-01-01-09)

http://www.rist.or.jp/atomica/data/dat_detail.php?Title_Key=06-01-01-09

[複合語]

シビアアクシデント対策 → (参考) 発電用軽水型原子力施設におけるシビアアクシデント対策規制の基本的考え方について

原子力安全・保安院 2012年8月27日

<http://www.meti.go.jp/press/2012/08/20120827001/20120827001-2.pdf>

[関連語]

炉心溶融 → 親見出し参照(p105)

設計基準事象 → 原子力施設の安全設計とその評価に当たって考慮される事象

設計基準事故 → 設計時に考慮された想定事故